

## 曇天（低温・日照不足）傾向に 対する水稻栽培管理対策について

7月に入り、気温は平年に比べやや低く、降水量はかなり少なく、日照時間は少なくなっています。

現在のところ梅雨明けの見通しがいいことから、葉いもちの発生が懸念されます。

以下の圃場は、葉いもちの発生に注意し、こまめな観察を行ってください。

○葉色が濃く葉先がひらついている圃場

○山陰や建物の陰で葉色が濃く、葉の上の水滴が乾かない部分。

※以下の病斑をみつけたら、ブラシン粉剤DL 4kg/10aを散布する。



◎今後もこのような天候（平均気温が25℃以下、小雨が頻繁）が続く場合は、穂いもち予防のため、出穂前の基幹防除を必ず実施してください。

《粉剤体系》ビームトレモンセレン粉剤DL

《粒剤体系》イモチエースクラブ粒剤

（詳細は営農だより 第5号 裏面を参照して下さい。）

○いもち病に弱い品種（特に警戒が必要）

コシヒカリ、カグラモチ、ひやくまん穀、石川酒68号

◎今後天候が回復し、高温・多日照が続く場合は、こまめな水管理（飽水管理）に努めてください。